

い さ き だ

発行：伊崎田校区コミュニティ協議会
第6号 令和6年3月12日

1月7日（日）志布志市消防署で消防出初め式が開催され、第一分団は行進間訓練や放水演習を披露。萩迫修作分団長の見守る中、本田浩昭副分団長の号令の元堂々とした訓練の成果が発表されました。市民の生命と財産を守るために日頃から仕事の合間に休みを惜しまず訓練にいらしていただけることに深く感謝いたしますと共に敬意を申し上げます。

近年、高齢化と共に若年層の人口減少により消防団員の平均年齢も高くなっています。校区内にお住まいの若い世代の方々の入団を願っています。



第二分団と同時に行進間訓練の指揮者を務める本田副団長（左側）



今年度購入のポンプ車 ↓



春の火災予防週間
放水訓練を実施

3月3日（日曜日）高下谷公園にて

白鳥神社春祭

おごそかに開催

3月3日(日) 各自治会長が参加し、五穀豊穡・家内安全・健康長寿を祈願しました。神事の時には、自治会長の皆さんで神社入口の竹林伐採をしてもらいました。また、今年度限りで神社理事の福岡文雄さんと大野修さんが退任されることになりました。長年のご苦勞に感謝いたします。ありがとうございました。



伊崎田学園に

県立特別支援学校設置

2月20日(火) 県議会3月定例会の開会で塩田知事より牧之原特別支援学校へ通う曾於地域の児童保護者への遠距離通学等による負担軽減を図ること等により曾於地域に新たに特別支援学校を設置することが検討されていましたが、伊崎田学園に設置する旨の発表がありました。校区民の署名とともに設置要望書を提出し、要望が通ったことに対し、改めて感謝いたします。今後は、県の調査や設計、建替え改修等の予算化が進み開校までには3年ほどの期間がかかるものと思います。

伊崎田学園の義務教育学校化も本格的に加速して参ります。教育委員会と学園が連携し児童生徒の学力向上と教育環境の整備にも注視していく必要があります。保護者の方々はもちろんですが、校区民の方々もご理解ご協力をお願いいたします。

南日本新聞に

伊崎田学園が紹介

2月11日(日)、10ページの子ども欄に伊崎田小児童、寄付金育てるの記事、20日の南風録にもお金と政治に対し、取り上げられていました。

他にも記者の目で志布志支局の福岡さんによる紹介があり、子ども達や先生方のかねてからの努力のたまものと思う月でした。

編集後記

20日の夕方は、NHKのテレビ放送に伊崎田相撲場からの中継もあり、学園の今後の発展を予感させる朝から夕方までワクワクした一日でした。新聞記事などで伊崎田の「崎(さき)」の字が、「崎」と表記されているのが、新聞社に尋ねたところ標準漢字を用いているため改めるかどうかという事でした。昔の人が大きくなくても立派に立っていることが大事と名付けたのかな？

収穫したハクサイを切る児童 志布志市有明の伊崎田小学校



かこしま 伊崎田小児童、寄付金育てる

志布志市有明の伊崎田小学校内に児童有志が考案した野菜販売所ができました。同市出身で長崎県在住の西山亮一さん(94)の寄付を活用し、「お金を増やしてみんなの願いをかなえよう」と、使われていなかった崩岸小屋を畑として再利用し野菜を栽培。1月26日はハクサイやニンジン3.5キロを収穫、冷蔵ショーケースに並べました。

西山さんは同市の遠山小を卒業し、2023年3月、市に教育振興資金として2100万円を寄付しました。市教育委員会はこのうち市内の全小中学校に25万～35万円を

分け、使い道を任せました。伊崎田小では25万円の使い道について全児童に夏休みの宿題を出しました。6年生5人を中心とする12人が、野菜の栽培・販売企画を大田昭二校長(54)にプレゼンテーションし、採用されました。2学期に栽培部を立ち上げ、寄付の一部で収穫物を保管・販売する冷蔵ショーケースを導入。10月に数種類の野菜の種をまき、世話してきました。柿元惇之介部長(6年)は「お金を育てて学校に役立てたい」と思いついた。小中学校で一緒に遊ぶ道具を買えたら」と話しました。